

第140回（2020年度春季）大会若手研究者優秀賞選考報告

1. 選考の経緯

・5月6日 第1回委員会（メール審議）

選考対象者リストを作成のうえ、対象となるペーパーの送付を春季大会企画委員会へ要請することとし、選考日程を決定した。

・5月15日 第2回委員会

選考対象となる8本のペーパーを対象に、1次選考を行った。

・5月20日 第3回委員会

2次選考を行い、優秀賞対象者を決定し、本人に対し、若手研究者という確認をとった。

・5月22日 第4回委員会（メール審議）

報告書を確定した。

・5月24日 大会

2. 選考の結果

(1) 選考の結果

鈴木知花会員の提出した「ケアの倫理と社会政策——日本の障害者政策への示唆」が優れていると判断し、鈴木知花会員を優秀賞の対象と選定した。

(2) 選考の理由

鈴木会員のフルペーパーは、大会の自由論題報告のために準備されたものであり、前半において「ケアの倫理の発展」、後半において「ケアの倫理の視座から考察する現代日本の障害者政策」という構成になっている。このうち、前半部分においては、ルディック、ノディングス、キテイのケア論の検討を通じて、ケアの倫理と社会政策の接続について論じている。この前半の学説史整理は丁寧で、自分が関心をもつテーマにとって、「ケアの倫理」と「正義の倫理」の関係や、前者が政策に対してもつ浸透力の重要性が、存在としても当為としてもよく理解できる内容となっている。一方、後半の日本の障害者政策の検討については、今後、社会福祉分野の研究者、実践家、そして当事者との対話を深めていことが期待されることである。

われわれ社会政策学会の会員は、通常、一人ひとりがかがみこむ各論は多岐にわたっているものの、全体的には社会政策に関わる社会保障と労働に広くまたがる分野への関心を共有している。鈴木会員のフルペーパーは、そうした幅広い関心をもつ会員の多くにとって読みやすく、その扱うテーマの重要な意義と含意を伝えることに成功しているものと評価される。

鈴木会員のフルペーパーは、大会報告用のものであり、現時点でそのまま学会誌に掲載が認められる水準に達しているということではない。しかしながら、選考委員のコメントに基づいて適宜修正・補完を行えば、学術論文として公刊するに堪える水準に達しているものと判断した。今後、社会政策学や社会福祉学などの学際的な研究領域の拡大・活性化について

の貢献が期待される。

以上を総合的に勘案し、第 140 回大会若手研究者優秀賞の対象として、鈴木知花会員を選定した。

選考委員：禹宗杭、垣田裕介、金成垣、熊沢透、所道彦